

## 「片目のダヤン」さんへ「シャロン」より

「片目のダヤン」様、お便りいただき、大変恐縮、と同時に感謝感激です。うちの指導教官が「良い論文というのは、賛同でも批判でもいい、議論を生む論文だ」と言うておりました。私の文章が拙いながらも、読んでメッセージを書こうと思っていただいたとしたら、うれしいです。せっかくだいたいコメントなので、生意気ながらご意見いただいたものに、「意見」させていただいたらと思ひ、ペンをとりました（というか、パソコンで書いていますが・・・）。

### 「祈りの前提として思うこと」

祈りの前提の違い、「確信」のあるなしについては、「なるほど・・・」と大変腑に落ちました。ありがとうございました。一つ、私が思ったことは、祈りは希望であることはもちろんなのですが、「努力をしない者いい加減な気持ちの者無気力な者無信仰な者」、この4つは一緒のグループにしたいくないなという思いがあります。どう分けるかという「いい加減な気持ちの者無信仰な者」と「努力をしない者無気力な者」にです。前者は「信仰」がないので、問題外だと思うのですが、後者にはないものは、「信仰」ではなく目に見える形の「行動」だと思うのです。私は、以前もお話した様に短期間の「引きこもり」体験者です。「信仰」はあったけれども、「行動」に全く移せませんでした。しかし、その中にあっても、神様は「希望」を与えてくださいました。「行動」つまり、善行、悪行によって裁かれないというのは、キリスト教の「醍醐味」ではないでしょうか？

### 「上野さんのフェミニズムと祈りについて思う事」

まず、私は、女性社会学者として上野さんを尊敬しております。彼女の書くものは、他の抜きんでている、そう思います。しかし、フェミニズムを「女性陣の味方」としてしまえば、男女の対立はいつまでたってもなくならない。私は、フェミニズムは男性と女性間の対話を開く理論であって欲しいと思っています。フェミニズムのゴールを「男性より優位に」と設定すれば、男女が逆転しただけで、「争い」の構造そのものは、変わらないからです。

### 「上野さんの思い出」

うちの大学にも、上野さんを「ちーちゃん」と呼ばれる方がおられます。それも驚きましたが、まさかうちの教会の兄弟の中に、お知り合いがいるとは・・・。彼女が全学自治会委員に立候補し当選したという話は、初耳で、大変興味深く読ませていただきました。

一つ私が思っているのは、上野さんは「愛の理解不十分なキツイ女性フェミニスト」ではなく、お父様への期待が大きい分、その期待に裏切られた思いの強さ、その反発としての社会学、信仰の否定、だったのではないのでしょうか？きっと、上野さんは、お父様への愛情が深く、深すぎたゆえに、その反動も大きかった、そのように感じています。

### 「上野さんの祈りの復活」

全く同感です。本当に「主の時」を待ちたいです。先ずはお父様のとの関係が回復されるといいな・・・と思います。

**コメント、本当にありがとうございましたm(\_)\_m**